

令和 3 年度

前期日程

英語問題

〔注意〕

1. 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、解答用紙の受験番号欄(計2か所)に正確に記入すること。
3. 問題冊子のページ数は、表紙を除き8ページである。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用紙は1枚である。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の余白は、適宜下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

- I 次の英文(A)と(B)を読み、それぞれの下線部の意味を日本語で表しなさい。(B)については、引用符の中の単語は英語のままでよい。

(A)

commensality. Most human cultures have considered food preparation and consumption, especially consuming food together, as essential to family, tribal, religious, and other social bonds. Some people would go even further and say that as social creatures, eating together makes us more socially adept and indeed happier human beings. However, in our highly individualistic society the value of eating and drinking together is probably honored more in the breach than in the observance.

(From FOOD FIGHTS: HOW HISTORY MATTERS TO CONTEMPORARY FOOD DEBATES edited by Charles C. Ludington and Matthew Morse Booker. Copyright · 2019 by the University of North Carolina Press. Used by permission of the publisher. www.uncpress.org より一部改変)

- (B) In language, the relationship between the form of a signal and its meaning is largely arbitrary. For example, the sound of “blue” will likely have no relationship to the properties of light we experience as blue nor to the visual written form “blue,” will sound different across languages, and have no sound at all in signed languages. No equivalent of “blue” will even exist in many languages that might make fewer or more or different color distinctions. With respect to language, the meaning of a signal cannot be predicted from the physical properties of the signal available to the senses. Rather, the relationship is set by convention.

(From Science, Vol.366, Issue No.6464, “Language and the brain”, by Lera Boroditsky, Copyright · 2019 The American Association for the Advancement of Science. Reprinted with permission from AAAS.より一部改変)

II 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

著作権の関係上、公開しません

著作権の関係上、公開しません

著作権の関係上、公開しません

設問(1) 下線部(i)~(vi)の語句の本文中での意味に最も近いものを、(イ)~(ニ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(i) repl

(イ) call on

(ロ) drive away

(ハ) escape from

(ニ) reconcile with

(ii) Which is to say

(イ) Moreover

(ロ) None the less

(ハ) On the other hand

(ニ) Put another way

(iii) negligible

(イ) extremely limited

(ロ) hardly pleasant

(ハ) relatively loud

(ニ) very significant

(iv) anatomy

(イ) animal language

(ロ) body structure

(ハ) musical ability

(ニ) space science

(v) exacerbate

(イ) delay

(ロ) freeze

(ハ) reduce

(ニ) worsen

(vi) echo in

(イ) are irrelevant to

(ロ) become unnoticeable in

(ハ) have an impact on

(ニ) work in favor of

設問(2) 下線部(A) the subspecies が指すものを本文中の英語で答えなさい。

設問(3) 下線部(B) adapt は具体的にはたとえばどういう行動をとるのか。本文の内容に従い、25字以内の日本語で説明しなさい。句読点も1字に数えます。

設問(4) 下線部(C) unnatural はどのような意味で unnatural であると考えられるか、25字以内の日本語で説明しなさい。句読点も1字に数えます。

設問(5) 本文の内容に従い、この文章のタイトルである “Whale songs are getting deeper” という現象の原因であると考えられるものを下記の(イ)~(ハ)から2つ選び、記号で答えなさい。

- (イ) Drones are spotted by blue whales.
- (ロ) Many ships pass over blue whales.
- (ハ) Some nations have resumed commercial whaling.
- (ニ) The number of blue whales has increased.
- (ホ) Seawater now has a higher level of acidity.
- (ヘ) The sound of melting ice is getting noisier.

Ⅲ 長期にわたって何かに取り組む場合、前向きな姿勢を保ち続けるのが難しいことがあります。そのような状況になった時、具体的にどうすれば抜け出せるでしょうか。あなた自身もしくは他の人の経験を1つ例に挙げて、70語程度の英文で述べなさい。

Ⅳ 次の日本文(A)と(B)のそれぞれの下線部の意味を英語で表しなさい。ただし、(B)では文学部の志願者は(イ)を、文学部以外の学部の志願者は(ロ)を選んで解答しなさい。

(A) (すべての学部の志願者)

私が「学ぶことって楽しいな」と思えるようになったのは、大学を卒業して社会に出てからです。

一度学びの楽しさを味わってからは、やみつきになりました。学べば学ぶほど、いままでわからなかったことがわかるようになり、それによって自分の視野が広がります。知らないことや新しいことに出会うと好奇心が刺激され、もっと多くのことを学びたくなります。

(池上彰、2020、『なんのために学ぶのか』SBクリエイティブ より一部改変)

(B)

(イ) (文学部の志願者)

ある登山家がひとつの登山をして、その記録を文章に起こし単行本にまとめたとする。しかし彼が本を書いたからといって、その本の読者は、彼の登山の根本がこの本によって侵食されているとは感じないだろう。登山家にとっての表現はあくまで登山行為そのものであり、その登山行為をあとから文章にまとめたところで、そんなものは所詮“おまけ”、彼の登山の副次的な生産物にすぎない。あとから本を書こうが書くまいが、いずれにせよ彼は山には登っただろうし、登っている最中にあとから本を書く自分を意識するなどということもない。つまりこのとき登山家は純粋に行動者——あるいは行動的表現者——として完結できている。

(角幡唯介、2020、『旅人の表現術』集英社)

(ロ) (文学部以外の学部の志願者)

なぜ「表現の自由」は守るに値するものなのか？

残念ながら、その問いに対する答えは憲法本文には書かれていない。書かれていないのは、それが自明だからではない(自明なら「表現の自由」をめぐる

論争が起きるはずがない)。書かれていないのは、その答えは国民が自分の頭で考え、自分の言葉で語るなければならないことだからである。

表現の自由にしろ、公共の福祉にしろ、民主主義にしろ、それにいかなる価値があるのかを自分の言葉で語るができなければ、「そんなものは守るに値しない」と言い切る人たちを説得して翻意させることはできない。

(内田樹、「民主主義をめざさない社会」)

http://blog.tatsuru.com/2020/03/26_1503.html より一部改変)